

平成27年度第2回鳥取市政懇話会

日 時：平成27年11月24日（火）午後2時～4時

場 所：鳥取市役所本庁舎6階全員協議会室

出席者 【市政懇話会委員（16名）】

山口朝子委員、英義人委員、浅井真由委員、景下明美委員、河毛寛委員、小谷文夫委員、佐々木千代子委員、田中仁成委員、田中道春委員、谷口興治委員、縫谷吉彦委員、林由紀子委員、松下稔彦委員、松葉幸博委員、村山洋一委員、山脇彰子委員

【鳥取市】

深沢義彦市長、羽場恭一副市長、河井登志夫総務部長、田中洋介企画推進部長、田中節哉中核市推進監、久野壯地域振興監、坂本雄司福祉保健部長、木村義彦健康・子育て推進局次長、大田齊之経済観光部長、井上寿光農林水産部長、藤井光洋都市整備部長、澤田裕昭環境下水道部長、神谷康弘教育委員会事務局次長、太田潤一政策企画課長、塩谷範夫創生戦略室長

1 開会

2 副市長あいさつ

本日、市長が遅れるため、代わって御挨拶申し上げます。1回目の市政懇話会では、人口ビジョンや総合戦略について御意見を賜り、9月30日に、4市では最初に、総合戦略をまとめて発表をさせていただいた。なかなか厳しい状況ではあるが一生懸命やっていきたい。また総合戦略を踏まえた10次の総合計画、新年度からの総合計画について今日はご意見を賜りたい。よろしくお願ひ申し上げます。

3 会長あいさつ

お忙しい中を御参集いただき、ありがとうございます。先程、羽場副市長から御説明があったが、この会では昨年度から人口減少問題について議論を重ね、今年度は総合戦略について議論を深めて参ったが、今回は第10次の総合計画についての御意見を賜るという様なかたちになっている。

さて私は保育園を運営しているが、先週末に鳥取市全域の来年4月の入園申込みの締切が終わった。今年も第一次希望の保育園に中々入れないという厳しい状況。これは保育士の深刻な不足かなと考えている。片や若桜街道にあるミドルシニアハローワークの話を見ると、60歳以上の方の求職希望の方が年々8%～10%ずつ増えてきている。昨年度も県下で2千人程度、2千件の相談があったという事で、今年度は10月現在、まだ何か月か残す中で1500件を超えているという状況があるよう。この辺りの仕事をしたい人と職種によっては不足しているというところのマッチングが出来たら良いのではないかと考えたりしている。

委員の皆様におかれましてもぜひ御専門のそれぞれのお立場から忌憚ない御意見を出していただき、実り多い会になるよう御協力を賜りたい。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

4 議事

(1) 第10次鳥取市総合計画（素案）について

○松葉委員 この資料を読ませていただき、非常に感激したというかすごい鳥取を目指しているなど強く感じた。この題目が項目にならず、ぜひ実施をしていただきたい。特に、

前期と後期とあるが、1年ごとに重点を決め、今年度はこれをやろうじゃないかというふうな重点項目を決めて取り組んでいただきたい。その上で、人口減少について子育て世帯に対する支援をもう少し力を入れて欲しい。子どものいじめもあり、未婚の人たちの結婚相談もあり、妊娠された御夫婦の相談、特に今核家族になって若い夫婦でもお年寄りがないという状況もある。そういう方々の相談サポートセンターのようなものを充実させていただきたい。相談員や相談場所はその人達に目に見えるような形で。さざんか会館に行けばこういうチラシがあって、あそこは子ども連れのお母さん方がよく来られるが、そのような公の所に置いていただき、いつでも気軽に相談できるようなことが出来たらと思う。

鳥取市は周りが山で囲まれているので、太陽光発電はいろいろあるが、水力をもっと活用出来るんじゃないだろうか。小さい川がいっぱいあるので、小水力で水力発電、小集落をまかなうような展望も考えていただけたら。

まちづくりについて、今本通りがアーケードの付け替えをやられておられるが、駅から県庁に向かってほとんど人が歩かない。それから商店に元気がない。本通りにはパレットとっとりがあるが、通常の店になってしまっている。特色のある商店街、この地域は若者中心の賄える商店、この地域はお年寄り、御婦人方やお年寄りの関係の方々のお衣料品を賄える商店というふうな特色のある商店街、空き店舗とか、市が時々考えて若い人達が入って来られるが、全体としてこの地域は特にこういう品物の商店街、この地域はこういう物っていう感じで行政の力で改革出来たらと考えている。

○河毛委員 製造業をやっており、そういう流れの中で発言させていただきたい。前もってちょっと読ませていただいた。非常に良い文章だと思ったが、中には今までどおりを紹介されている部分もあって、新たなものが余り見つからないかなという気持ちもしている。国際交流の中で、一度委員会を作っていただき、私も副会長させてもらっている会議の中でいつも言っているが、75ページの国際交流で観光やいろんな形があるが、76ページで相変わらずロシア・中国・韓国と記載されている。もう少し範囲を広げることが必要ではないか。民間では、特に外国人研修でも中国からベトナムの方に変わったりタイに変わったりと色々な形で変化がある。そういう中で行政の力を各民間の企業、中小零細企業がまだ頼っているところもあるので、そういったところも頭に入れて頂けたら。民間の銀行でも支店が出来ているし、TPPも間近になっているのでそういう事も視野にいれる。少子化問題においても、やはりこれは行政がどこかで決断しないといけないと思うが、今のままで日本の人口はきっと増えないと思う。日本でも言われているが、じゃ外国人の力をどういったふうに借りるのか。どこまで入るかわからないが、踏み込んだ発想も要るのではないか。アベノミクスでは合計特殊出生率1.8とか言っているが、鳥取ではどこまで人口推移を考えてされるのか、そこまで踏み込んでこういうものを考えられるのか。今のままでは確かに人口は減り、どこかで我々は結論を出していかないといけない時期でもあり、そういう提言も載せるべきではないか。教育とかも書いてあるが、残念な事に頭のいい人はみな都会に出て行く。そののちどころもどういった形で進めて行くか、掘り下げてい

かないときれいなことは言えが現実どうなんだという、そういったことも合わせて外国人の事に関して絶対に関わる、避けては通れない部分であり、そういった部分では弱いかなと若干感じられる。

○市長あいさつ

今日は会議に遅れ、お詫び申し上げます。

懇話会の皆様にはいつも市政の推進に格別なる御理解御協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

今日は第10次鳥取市総合計画の基本構想と基本計画の素案について御審議いただく。次の10次総は基本構想が10年間ということで、平成16年11月の合併を経て11年が経過したが、次の10年間はまさに将来の鳥取のまちの在りようを決めていく、そういった大変重要な期間になると常々思っている。急激な人口減少、少子高齢化、こういった非常に難しい課題に鳥取市としてこれからどうやって対応していくのか、知恵を絞って行かなければならない。これは行政だけで功を奏するようなそういったものではない。多くの皆さんと連携をさせていただきながら一緒に進んでいくことで、この鳥取の将来のまちの方向が開けてくる、進むべき方向が分かってくるというふうに思っている。併せて今年度は地方創生の年ということで9月30日付けをもって人口ビジョンと鳥取市創生総合戦略2つを策定した。この地方創生の取組と鳥取市の次期総合計画とかみ合わせて進んでいきたいと考えている。どうか忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

○林委員 凄く膨大な量なので総合計画なので凄く思いながら読ませていただいた。その中で4点気になるところがあった。

26ページの「にぎわいにあふれ安心して暮らせるまちづくり」の重点施策の「ふるさと・いなか回帰の促進」というところが出てくるが、あまり聞きなれない言葉なので、このあたりは何か意図があつてこういう言い方に変えられたのか。今までは定住促進とかUターンという言葉を中心に使っていたら、これを見ると「ふるさと鳥取市・回帰戦略連絡会」というのも作っていたら、多分その一環の中で言い方を変えられたと思うが、まだ聞きなれないので今一つ具体的なイメージ、意図するところを教えてください。

33ページの教育のところ、③の教育の充実関係で、特別な支援を必要とする子どもの支援など、とても充実した内容になっているが、一番下の不登校の部分について、「不登校など学校児童・生徒の減少に向けた取組を充実します」というくだりだけ読むと凄く冷たい感じに見える。不登校など学校不適合っていうのはあまり良いことじゃないから減らすという意味合いに取れる。不登校でもいろいろ事情があつて、子どもがいじめられているとか家庭事情とか学校不適合とかいろいろあつて不登校になっているケースが多いと思う。その子どもも将来に向かって学校に復帰したり、社会の中では活躍したりしてらっしゃる。

やる方が沢山あることを思うと、ただ単に減少に向けるだけじゃなく、不登校の子ども一人一人に寄り添いながら居場所づくりをすとか、もう少し一人一人に向き合ったことも含めて対応して、もちろん対応しながらも行政的にこういう書き方になるのかもしれないが、これだけ見ると不登校＝ダメだから減らすというふうにしかな見えないので、もう少し丁寧な言葉があった方がいいのではないかと。減らさないといけないというメッセージになるので、もう少し丁寧な書き方にして対応していただいた方が良いように思う。

37ページの「結婚・出産・子育て」で、少子化対策は今非常に課題になっていて、そのために書かれた言葉だと思うが、「(1) 現状と課題」の2行目に「少子化の一因と考えられる未婚者の増加を抑制するとともに」という言葉が行政としてここまで書くのかと。もちろん未婚の方が沢山いて出産が晩婚化して少子化が起きているのも事実だが、未婚の方も御自分が選んだ未婚の方もあるし、結果として未婚の方もいるし、いろんな事情があって、テレビで見ていると結婚したくないという方もかなりいるということもあった。それはそれで大きな課題だと思うが、未婚者の増加を抑制するという言葉を行政として書くのはどうなのか。そのあたり皆さんどう思われるのか。結婚したいと思ってる方を支援するのはもちろん良いが未婚者の増加を抑制するというのは上から目線ではないかと気になった。

51ページの雇用の「(3) 施策の主な内容」の中で、他はそれぞれ具体的な施策が書いてあるが、①②③はプロジェクトの名前だけが出ている。これは何か意図があってこういう書き方になっているのか。プロジェクト名というより、もう少し中身があった方が良くはないか。こういう書き方もあるかもしれないが、何か意図があれば教えていただきたい。

○久野地域振興監 従来なら移住定住の促進であるとかUJIターンを推進しますという書き方をしていた。「ふるさと・いなか回帰」ちょっと耳慣れない言葉だと思うが、専門的に移住定住のいろんな流れがある中で、思いとしてはふるさとUターン、出た人が鳥取に帰って来て下さいというUターンの意味と、鳥取を知らない人が田舎志向というか、都市に出る人が多いが、田舎志向の傾向が、特に若者の世代で広がって来ている。そういったIターンの意味合いで「いなか回帰」という言葉を使っている。総合計画の中にある「ふるさと鳥取市・回帰戦略連絡会」はすでに立ち上げており、行政だけでなく、いろんな民間の方、子育て関係であるとか企業であるとか金融機関であるとか、特にさっき言ったUターンを進めたいという思いで連絡会議は立ち上げて進めている。鳥取市はいち早く、移住定住の施策を進めているが、さらに細かく進めて行きたいという思いで言い回しを変えた。

○神谷教育委員会事務局次長 33ページの③の③について確かにご指摘のとおり。鳥取市のデータとして、不登校児童が高いのも事実で、おっしゃるとおり居場所づくり、適応指導教室教育センターというところがあるが、そこで学校復帰を目指した取り組みもやっている。不登校はダメだと言うふうにとられてしまうという表現は検討させて頂きたい。

○田中企画推進部長 37ページの「未婚者の増加を抑制するとともに」という表現ですが、文脈としてはまさに林委員がおっしゃったことで、結婚したい方の願望を叶える、そういう施策を取りたいということだが、表現がもう少し丁寧な方がもっと良いと御指摘を頂いたので見直したいと思う。

また、河毛委員のおっしゃった依然として韓国、中国、ロシアの環日本海の関係ということについて、実際のところ、民意として国際交流にしても経済交流にしても、まだそこはやはり環日本海に軸足はあると思うが、ただ、思いとしてはやはりそこに留まらずに、という思いはある。具体的にそこはどこなのかということはまだ出てきていない。ということで「ロシア、中国、韓国など」という表現をしている。もう一つ、移民の問題について、これは人口減少の問題が出てから、移民ということをどう捉えるのか、おそらく市町村とか、都道府県、国策レベルでもこれはどうしていくのかという議論は多分これからもされていくと思っている。市だけで出来ることじゃなく、我々のやらないといけないことはこういった交流事業を増やしていくことと皆が住みやすい環境づくりの整備をすることだというふうに解釈している。ロシア・韓国・中国の問題については表現を検討させていただきたい。

○木村健康・子育て推進局次長 松葉委員から子育て世代の支援をというお話があった。例えば妊娠期から、保健師等が母子手帳を発行した時点で寄り添って、妊娠、子育てと支援をするようにしている。ただ、なかなか把握出来ない母子の方がいらっしゃる。こういったことが課題で、内部できめ細やかに拾っていくよう、ちゃんとした支援が出来るように協議を進めているところ。また、一貫した相談体制の構築ということですが、これについては、今まさしく協議を進めているところ。先程言いました妊娠・出産・子育て、それからさっき教育委員会から話があったが、不登校の対応など、小学校・中学校・高校まで広げて一貫した相談体制を作っていくというところで今協議を進めている。

○大田経済観光部長 51ページの雇用の創造と人材の確保ですが、今、鳥取市では経済再生・雇用創造戦略を策定し、経済政策を進めている。プロジェクトを挙げ、その内容を箇条書きに挙げるという作りにしている。中身については、次の施策2から工業の振興、商業・サービス業の振興、農林水産業の振興、観光の滞在型観光の推進に中身を挙げている。今回、雇用が大切ということで一番始めに持ってきているので、これらの事業を総括的に成長産業の基盤整備だとか簡単にまとめているところ。中身については工業の振興以降に挙げているという作りにしている。

松葉委員から小水力の御意見もいただいた。スマートタウン構想という再生可能エネルギーを活用し、いろいろ動きが出ているところ。バイオとか風力とかいろんな角度で可能である自然エネルギーを活用していきたいと取り組んでいる。また、空き店舗の指摘は御意見ということで、商店街と一緒に取り組んでいるところ。

○谷口委員 まず1点、「協働」協力しながら働く、非常に良い言葉で良いと思うが、いまいち理解というか何を思って協働かというのか非常に定着していないように感じる。この

間あった公民館大会など、そういう話も出てくる。私は役所で出来ることは役所でやって、役所で出来ないことを民間がやろうというふうに思っているが、具体的に協働とはこういう事だということをもう少しわかるように我々市民に教えて頂けたら。

2点目に財政基盤について17ページと99ページにある。良いことが書いてあるが、鳥取市も人口は減ってくるし、どうしてもこれから縮小していく自治体になる。財政的にも当然縮小していくべきだということを考えれば、財政基盤の強化は本当に大切。右上がりではなく右下がりになっていく前提で基盤を強化していく。ここに書いてある選択と集中を見据えるというのはいいが、整備といったことをいれていかないと。この間も申し上げたが、小学校でも生徒が減ってきている。やっぱり統合廃止ということを考えていかないといけない。面白くない仕事かもしれないけど、やっぱり考えて行かないといけない気がする。

3点目にPDCAだが、役所というのは、PDはするけどCAはしないところ。この「チェック」「アクション」を具体的にどういった形でやっていかれようとするのか。例えばこの市政懇話会がCAについて一定の役割を果たしてほしいという話が出てくるのか。非常にきれいな言葉だが、これはかなり難しい、非常に苦しい作業であり、実際にこれどうやって進めていくか大きな課題ではないか。でも是非ともしていただきたい。

先程私も直接関わっている移住定住についての話があった。具体的に、実際にやって来られた人が例えば家を借りてそこに入居して住もうということになれば条件整備、改装費しかり契約条件、いろんなことが出てくる。調整はやるが、やっぱりそこでいろいろとお金が必要になってくる。そこにぜひとも行政が支援をしていただきたい。我々の方で県は県、市は市と聞いて上手く調整すればいいが、県は市がすばらしい補助制度を作っていればそれに賛同して上乘せして補助金を出すという制度もある。そのあたりも踏まえて、我々が非常に使いやすい融通の利くような移住定住の施策が用意して頂ければありがたい。最後に、小水力発電の話が出て回答があったが、ぜひとも山間地で進めていただきたい。現実に河川の管理者との調整が出てくる。そのあたり上手くいくように上手く調整していただきたい。

○田中(道)委員 谷口委員と同じようにまちづくり委員会に出ている。国府の地域振興会議の時にざっと説明を受け、今日2回目。大変膨大な資料で、よくここまでいろいろな分野で作られたものと敬意を表するが、どのページをめくって見ても、私が携わっている「まちづくり」という言葉がないところはない。それぐらいまちづくりというのは重要。文字どおり鳥取市の施策の中でも重要な分野。まちづくりの取組を始めて7年が経過しようとしている。宮下地区は20年の12月18日に立ち上げ、あと1月ちょっとで丸7年。その時には闇雲に立ち上げたような感じだった。7～8人くらいのそれぞれの立場の人に集まっただけ、早く立ち上げよう。国府町では成器地区に次いで2番目だったと思う。立ち上げたはいいが、具体的にこれからどう進めて行ったらいいか。要するに現状が分かってない、現状把握をしなければいけない。7～8人じゃ絶対出来ない。国府町でこ

の地区で一体何が課題になるのか。1番これが大事なことだが、課題になることを克服しながら進めていくことが大事ということで、55名くらいだったか、委員を任命した。いろんな各団体から来ていただいて、とりあえずアンケートをしようということになった。まず、国府町宮下地区に住み続けたいかという、一番根幹に関わる質問をしたところ、住み続けたいという人が8割を超えていた。大方予想はされていたところだが、では愛着を感じておられる方々にどういう風なまちづくりをしたいかということを具体的に聞くと、「安全で安心して暮らせるまちづくり」が一番多かった。2つめに「人権福祉を大切にされたまちづくり」をしてほしい。また文化史跡が沢山あるので史跡をまちづくりの根幹に据えて進めていったらどうか。といったようなことが挙げられた。2点目として、住みよいまちにするためにどうしたら良いと思うかと聞いたところ、まず「きれいなまちであって欲しい」自然環境、環境美化、分かりやすく言えば掃除の行き届いた美しいまちであって欲しい。ゴミゴミしたまちには住みたくないということだと思ふ。それから「高齢者を支援してもらえまちづくり」であって欲しい、また「コミュニティを大切にすまちづくり」であって欲しい、という意見。この5～6の課題で我々が目指していくまちづくりが少しずつ見えた。公民館活動に乗ったまちづくりの運営をしてきたが、発足して7年、5年を一括りにして反省、先程谷口委員が言われたPDCA、検証する。具体的に次に進むのにどうしていいかということのけじめをつけながら進めていきたい。

「ユニバーサルデザイン」という言葉が飛び交ったのが数年前だったか、これに非常に着目している。それから高齢者支援の分野では「バリアフリー化」、そういったところが当たり前の姿でありたいと願っている。最初に松葉委員もおっしゃったが、まちづくりはあんまり何本も旗をあげるのではなく、例えば「今年はまちをまもるぞ」「鳥取市はまちを守ると」といった一つの例としてユニバーサルデザイン化した鳥取市をしようとか、例えばそういった重点目標を1～2本くらいで作ってまちづくりを将来的に行って欲しい。安心・安全に利用できるまち、施設そういったものに繋がっていくのではないかなと思っている。毎日まちづくりを励みながら、自分たちの掲げている旗印に大きな間違いがないか、各種のイベントをした後に住民の方々の顔色や気持ちはどうだろうと聞いてみたり様子を伺ったりして、声を拾い集めながら明日の活動につなげていく。

○村山委員 田中委員からまちづくりの現状を踏まえた話があったが、私も鳥取市の自治連合会の代表として出ているので、総括的に現状とは何だいという、特にまちづくり協議会と公民館のあり方について申し上げたい。9次総の総合計画の策定にも関わった。まちづくり協議会と公民館の提言を出したが、まだそれについての取組、あるいはそのことをこのたびの10次総に反映していないように思う。自治会いわゆる町内会はどことも会員が減っており、新しい団地が出来ても自治会の組織が出来ないという現状。67ページにまちづくりについて現状と課題があるが、現在のまちづくり協議会は市が示されたパターンに基づいて60地区が早く作れということで出来たと認識しており、消化不良のところがある。特に合併された8町村に関しては旧来の鳥取市との温度差と言うか、要は役員の

なり手、財政支援がない。いろいろ視察に行くが、やはりまちづくりに基本的に財政措置をしている。また地区の公民館を含めたコミュニティセンターというのを作っている。総合的に行政も中に入ってまちづくりを支援しているという状況、山口にそういう事例がある。私もみんなが住みよいのは大変良いことだと思って帰ってきたが、公民館の館長を含めた体制が、市長と教育長の双方から任命されていて、公民館がまちづくりの拠点なので当然公民館は閉める訳にはならないが、公民館は社会教育、生涯教育で忙殺され、まちづくりのことまで出来ないというようなことがある。さっき申し上げた地域コミュニティセンターとか公民館のあり方について、もう少し見直す必要があるということだけ書いてあるが、もう少しこの辺を深く、具体的に考え方を入れたら良いんじゃないかなと思うので、その辺をしっかりお願いしたい。

○**松下委員** 従来の総合計画に比べて将来への危機感が反映されており、全体的によくまとまっていると思う。計画を力強く推進していただけたらと思っている。今、村山委員の発言の中にあっただが、全般的に感じているのは、災害支援であったり、子育ての支援であったり、高齢者の支援であったり、どの部分であっても基本となるのが人であり地域社会というのが前提になっている。例えば高齢者の問題でも、地域社会、地域住民との連携というのが、地域住民がすべて連携しているというのが前提で、総合計画で表現されているわけだが、やはり先程、自治会への加入率の問題等、基本となる地域住民が、今かなり希薄になっている、隣近所の顔も知らないだとかいう状況が多くある中で、この連携が果たしてとれているのか、本当に基本となる所だが、前々から指摘されているが、コミュニティをどう再構築していくか、今これから少子高齢化に向けて非常に重要なことではないかと思っている。協働のまちづくりを力強く進めておられるところだが、ここにもやっぱり生活様式の多様化等によって付き合いも隣近所の付き合いも少なくなっているということもあり、そのあたりを将来に向けて地域住民がもっとまとまるような、繋がりがもっと持てるような鳥取市に漠然として良いのか、我々一人一人が考える必要があると思う。そのあたりに行政も力を入れて頂けたらありがたい。高齢者、子育ての関係の仕事をしているので、地域の繋がりを従来にも増して、我々もだが、力を出していただけたら。

○**英委員** 労働と活動と考えると、労働は誰でもする、食べていかなければいけないので。ところが活動というものに対して希薄になってきていると思う。昔は労働をしながらそして活動をするという形があった。それがなくなってきて、活動というものに対する考え方が大きく変わってきた。まずいろんな計画を、10次総を考えていく大前提として、やはり住民市民参加が絶対的に大事。すべての項目にあたって言えることだろうと思う。こちらにいらっしゃる方はまさにずっと活動をしてきた方ばかりで、それが5%でも10%でも増えれば、それが全体の大きな力になるわけでいろんな計画を達成させようかと思うとそこになんとかスポットを当てて、活動というものに対する考え方に共感共鳴してもらって鳥取市全体、市民全体で大きく盛り上げていくような、そういった形を取っていくということがこの計画の成功になってくると思う。個々の問題はいろいろあるが、10年20

年を考えた時に、この考え方が市民の中で20年の中で大きく変わってきた事だと思う。

○田中(仁)委員 そもそも今後10年を見据えた計画ということで出されたのだが、何となくこれまでの延長線上の計画なのかなという印象をちょっと受けてしまった。これまでの10年とこれからの今後の10年というのはおそらくもの凄く違ってくると思う。そういう部分からいくと河毛委員と田中部長のやり取りの中で環日本海交流の話があったが、国際交流という点だったら環日本海諸国でも良いと思うが、経済交流、経済という流れの中でおそらく韓国とかロシアを見ている企業は鳥取では非常に少ないのではないか。むしろ例えば東南アジアとか例えばインドとか、中国はもちろんあると思うが、国際交流の部分で環日本海諸国を上げられるのは、違和感はないが、55ページの国際経済交流の推進というところだとやっぱり環日本海諸国だけではなく、例えば広く東南アジアとかそういった表現はぜひ加えていただきたい。今後10年を考えればそうやって来るんじゃないのか。

13ページ以降の基本的考え方などを拝読させていただいて、個人的にもっとあって良いのではないかと思うのが、文化とかソフトパワー。鳥取市がもっている歴史とか風土とか文化とかソフトパワーをもっと使われた方がいいのではないか。偶さかだが、今週発売のダイヤモンドで中国人が最近ツイッターやフェイスブックで鳥取を凄くアピールされているというのが出ていた。どういったことかという建物とか何とかではなく、例えばコナンであるとか、大それたものじゃない例えば鳥取市でも童謡唱歌の故郷であるとかまだ十分に生かし切れてないと思う。文化とか歴史とかを活かしきれてない、まちづくりとか鳥取市の観光とか戦略的にもっとドンと押し出された方がいいという印象がある。

33ページの教育環境の充実について、自分の持論だが、小学校や中学校の校区の見直しとかあえて再編というが、今後10年間の間でもっと真剣に考えた方がいいのではないか。旧町村部や現在の町、中山間地では子どもたちが通えない距離の学校まで統合再編されている。ところが特に中心市街地では通える距離でもたくさん小学校がある。10年というスパンを考えたら単純にその空間を何に活用するというわけではないが、やっぱり活用できる可能性もあるだろうし、究極的に全てまちづくりにつながるが、まちづくり、鳥取市の市づくりという点から、もうちょっと校区のあり方を検討することで鳥取の将来の姿、絵面が変わってくるのではないか。

○小谷委員 田中委員と同じようなことになるが、資料自体は非常に網羅的で体系的に整備されていると思う。ちょうど平成29年に北前船のフォーラムを鳥取に誘致をすることになったという記事を見たが、要は文化とか歴史というところで考えると、やっぱり鳥取の歴史はどちらかといえば池田公といったところが中心で、民間とか物流とか商流がどうだったか知る機会がほとんどない。その資料も散逸してしまっている。例えば北前船が賀露の沖に着いて、それから運んで袋川のところで荷揚げをして、そういうこともほとんど知らない。このような昔の江戸時代の進んでいる状況を知ることが、一つは鳥取の元気づくりの一助になるのではないか。ぜひ北前船のフォーラムを機に、早めにそういうことを整備していただければ、後々自信を持てるような鳥取市の構築の一つになるのかなと思っ

た。

それからちょうどこの10次総の間に東京オリンピックがジャスト中間点にある。50年前の東京オリンピックの時は、オリンピックが終わった後は景気が後退して、その後、人口も増え続けていく高度成長の波に乗った。そういう意味ではオリンピックは経済的には特異点にあるのではないか。オリンピックまではハイテンションでどんどん物事が進んでいって、終わった後どうなるのか、おそらく人口は生産人口も減っていくし、どうなるのかビジョンが描けない中で、ベースとしてはこの総合計画はあるとしても前半と後半みたいな分け方というか、若干の軌道修正をしていく必要があるのではないか。どういうふうになるのか全然読めないが、外国人の先程の就労とか定住の話とか国の話とか治安の問題とかいろんなパラダイムが出てくると思うので、その辺りは計画のPBCを回す中で、付帯、留意するようなところを設けておいた方がいいのではないか。まず注意を払っているとメッセージを送る方が大事だと思う。このままずっとパラダイムに向けてついていけなくなるのではないか。あるいは見込み違いというものもあるのではないかというふうに思った。

○縫谷委員 この計画を見て素晴らしいと思う。ただ40年生きてきてこういうものを見る機会が市民は無いなというのが率直な感想。このことを市民にどう伝えて協力をいただくかということが今後非常に大事ではないかと思う。今後、地域で生きていけないといけない。そうすると地域が元気でないといけないと考えると、会社としてもやっぱり自分達の利益だけでなく、地域のために何か出来る事をしていかなきゃいけないなというような感覚としてシフトしてきている時期だと思う。やはり市の資源というのは、物とか自然とかあるが、人にどう協力してもらおうか。「ごめん大変だからちょっとここ手伝って」ということを市民に卒直にお願いして協力してもらおうような、そういう街にしているのではないか。こういった熱い思いを伝えればみんなに伝播して関心が広がって、やっぱり鳥取が良いなということに繋がってくるのではないか。それをどう伝えていくか考えてやっていたと良い企画になるのではないか。

国際に関してさっき移民という話も出て、そういうことも考えられているんだというのは非常に嬉しいが、本気で考えていけないといけない時期に入ってきたのではないかと思う。例えば外国人と本気で交流しようと考えて、観光も進めて欲しいし、公衆無線LANの問題であるとか、そういったものを先駆けて他の地域と違う取組を、特色のある事をやっていただくと、もっと外国人観光客も来やすい環境になるのではないか。飲食店でも必ずどここの飲食店に行っても英語と韓国語のメニューがあるとか、そういうところを企業に協力してもらったりして、ウエルカムで向かえる県なんだよ市なんだよということを伝えていただけるようなまちづくりをしていただけたら。

質問だが、鳥取マラソンが今凄くあがってきているが、参加定員をみると3500人、これは何か理由があるのか。もう少し上げてやっても良いのではないか。10年後も確か5000人だったか。なぜ5000人で止まるのかと思ったりもして、もし考えがあった

ら教えて欲しい。

○田中企画推進部長 多岐にわたっているような御意見をいただいた。今の意見を集約していけば、今はまだ素案段階だが、またかなり良い計画が作れるのではないかと考えている。その中で、我々の考えを述べさせていただく。まず谷口委員から協働の関係、定義というお話があった。実際には平成20年に策定した住民自治基本条例に定義が載せているが、そこがやはり基本的な部分であり、「まちづくり協議会」が61あれば、その中で協働のスタイルと言うのもそれくらいの数はある。ここは自治ということとの関わりの中でやっていく。我々も関わっている話だが、地域の中でより良い形を作っていくということでまちづくりが進んでいくのではないかと考えている。

またPDCAのお話もあったが、第10次総合計画は総合企画委員会の諮問を受けており、作る時もだが、進行管理についても役割を担っていただく。併せて総合計画は全般的な事業なので、行革の市民委員会、そういったもので全ての事業網羅は出来ませんが、象徴的なものについてはPDCAのサイクルで見直していくという作業を行い、今後これを継続させていくというふうに考えている。村山委員からコミュニティセンター、公民館の関係で方向づけということがありましたが、今年度から始まっている6次の行革大綱の中に公民館の位置づけや協働のまちづくりの方向づけを検討するというところとしている。これをどうしていくという結論めいたものは総合計画の中には中々位置づけできないが、そういった検討は具体的に進めている。その中で社会教育の部分とコミュニティの部分で、実は自治連の役員の皆さんの中にもいろいろな意見がある。これは引き続き民の皆さんがどういった形を望まれるのかといったところを基本に据えながら検討していきたいと考えている。

また市民の協力をどうしていくかということ、まさに計画を作るときも当然だが、皆さんの力がないと、市だけがやっても出来る訳がないので非常に大切な視点だと思っている。一つの計画づくりの中で、来年年明けてからになるが、フォーラムをやりたいと思っている。こういった中にも地域の経済、若手経済の皆さん、JCからも参画していただいて気分を盛り上げていきたいと考えている。

○河井総務部長 谷口委員から御指摘いただいた財政基盤の強化というところで、縮小していくべきだと、そして右肩下がりというのを意識し、そして選択と集中という言葉、整理という部分も考え方を入れたらというお話だった。確かに現在の人口減少、人口構造の変化ということを考えれば当然そういうものは非常に意識していかなければいけないと考えている。この計画の中にも、102ページ最後のあたりになるが、ファシリティマネジメントの推進というところで具体的な取組を見ていただくと、一例ではあるが、公共施設の総量縮減、再配置の推進ということで、例えば複合化による機能向上であるとか公民連携による整備活用、資産の売却、そして結果的には施設の総量や生涯経費の削減を図るということで簡単に書かせていただいている。また経営の基本方針という公共施設のものを作っているが、今後40年間で総面積、現在の面積の約3割程度を縮減というようなこと

るも挙げている。実際やるということになると、複合化であるとか廃止ということも出てくるが、そういうことも視野に入れている。また6次の行革大綱の中でも、プラスの面ということで市税収入の増とかふるさと寄付金の増というところもやっている。右肩下がりでいうと、5ページ6ページあたり、特に6ページに今後10年間の財政シュミレーションを載せている。ここで例えば歳入の見通しを見ていただくと、28年度が一番下のところで948億37百万円そしてその10年後も大体ほぼ同じような金額で、これ右肩下がりになってないのではないかと、人口減少も含めて。この中には当然30年4月に鳥取市が中核市に移行するよう進めている。そうすると鳥取県が現在やっている業務約2200事務について財政的には歳出も出るし、歳入も出る。ただこの経費について、歳入は地方交付税とか県からの委託とかいうようなものでプラスマイナスゼロというようなもので、今、検討、協議しながら押しすすめているところ。

学校の統合についても田中委員からお話もあったが、教育委員会では校区審議会というものを設け、それぞれ課題について取り組んでいる。具体的には、中山間地になるが、千代南中学校とか、現在福部の方では幼小中一貫校、また鹿野の方でもそのような話も出ている。統合という訳ではないが、その中で検討している。中心市街地については、教育委員会事務局から話があるかもしれないが、それぞれ会を設けながら進めているところ。

○大田経済観光部長 田中委員から御意見のあった観光の文化歴史を活かしたということで、63ページに表現はどうしてもあっさりになってしまうが、「史跡、文化財、自然等の観光素材の磨き上げと市内の観光地や体験施設、イベント等をつなぐテーマ性をもった観光ルートの開発を進めます」ということで、特にこれから歴史関係とか文化、ここを観光としても力を入れていきたいと思っている。姫路と岡山とのHOT連携でもそういうテーマを重点化していこうという取組をすることとしているし、鳥取市の城跡の復元とかある中で、先ほど北前船のこともあったが、歴史をどう市民に知っていただくか、どう観光につなげていくかということで力を入れていきたいと考えている。

国際関係で、確かに今、東南アジアやインドに鳥取市内の企業も進出されている。御指摘があったように、東南アジア、インド等、新たな市場の開拓についても記述する方向で検討したいと思っている。実態として、国際経済発展協議会という官民で連携した組織があるが、その中では当然、環日本海だけじゃなく、世界全体で動かれるところを支援しようということをしており、今まで東南アジアのセミナーを行ったり、制度としても環日本海だけでなく、市場開拓に行く時の支援とかそういう制度を持っている。単語的にも東南アジア関係の言葉が出てきてもと思うので修正させていただく。

○浅井委員 市民まちづくりワークショップの方で参加させていただいた。その意見も反映されており、嬉しい気持ちで資料を見た。今回凄く気に入ったのは13ページにある「鳥取市らしさ」という言葉。「すごい！鳥取市公式ガイドブック」を拝見させてもらったが、たくさん写真が載っていて明るい鳥取だなと伝わった。そこでもっと思ったのは、人って凄いなということ。人の笑顔だったり人がたくさん集まったりしたガイドブックを見て、

地域資源と言っているのか分からないが、もっと人の存在とかまちでこんなに頑張っている人がいるというのを鳥取市としても、もっともっと応援して欲しいし、いい意味で活用していけたらいいのと思った。

県外出身ということもあり、疑問なところがある。鳥取しゃんしゃん祭りを見たことがない。日程的な問題があって、どうしてもお盆の時期なので県外生は大体帰ってしまうので、見たくても見えない。プレイベントや傘踊りは見る事が出来るが、そういう意味で「しゃんしゃん祭り」を、日本を代表する祭りにしますと63ページに書かれているが、人を呼ぶということを考えると、もう少し日程を考えて人が集まりやすい時期の方が良いのではないかと思っている。

○佐々木委員 子育て支援で、先日、孫を東京から連れて帰ってくる途中でP Aのトイレに行ったら、小さい便器が、洋式の便器にちょっと載せるのがあった。東名の間はあったのに中国道に入ったらなかった。子ども用の便座がある、それだけのことだが、凄く嬉しかった。たいした費用ではないので出来れば公共施設には、トイレの1カ所にはそういう物を置いて鳥取市は子育て支援しているよとアピールするのにいいのではないか。

○山口会長 この度11月に本通りに「コモド」という子育て広場が出来た。300㎡とかなり広いが、そこに多目的トイレ、男子トイレ女子トイレの横に子ども用トイレをかなり広いスペースを取っている。同じようにそれが凄く珍しくて凄く暖かくて、それを見に子育て中のお母さんが今日もこの雨の中を午前中30組ほどが来られ、必ず見て帰られる。これだけのことを入れたことが子育て中のお母さんが集まる要因になったのだと思ったのでその通りだと。ぜひ公共施設に子ども用トイレの設置をお願いしたい。

○神谷教育委員会事務局次長 学校統廃合の関係で先ほど総務部長から話があったが、若干補足をさせていただく。学校の統廃合について、現在、教育委員会のやり方は全体として校区審議会に諮問をしている。全体としてどうあるべきというのを答申を出してもらって、それに基づいて進めて行く手法を取っている。校区審議会が一番念頭においているのは、一方的に校区審議会あるいは教育委員会が「こうしましょう」「少なくなったから統合しましょう」というやり方はもちろんあるが、現実問題として地域の意向なしにして聞かずに結論ありきとなって中で、今、考えているのは地域で教育を考える会という組織を作っていただき、そこで議論を、教育に地域の方が責任を持っていただく、提案していただく。ただ残ればいいということではなく、こんな学校を残していきたい、そのためには地域としてこういうフォローをしていこうということを併せてまとめて欲しいということをやっている。その結果として、先ほど少し出ました福部の幼小中一貫校というのが、地域から出てきたものを基に答申がなされて進んでいる。最近では鹿野小中学校があるが、同じ鹿野町内で200mぐらい離れているが、ここについても小中一貫教育というものを希望するという話が出てきた。それに対して今度答申が出される予定になっている。ただ、今進んでいるのはどちらかというと中心市街地とか旧市ではなく、合併地域だが、御指摘があったようにまちなかには小学校がたくさんあるが、そちらはいいのかという意見も確

かにある。規模の物差しというか、まず小規模を何とかしないといけないのではないかと
いうことでそちらを進めようとしているところ。今の校区審議会は12期になるが、この
26日で任期が切れ、次の審議会が始まる。おっしゃる様のように中心市街地のことにつ
いてもこのまま何もしないのではいかんという申し送り事項を作って次の審議会に送ろう
という状況。例えば規模の物差しもあり、通学距離の問題もある。先ほどから御意見があ
りましたように地域が今組織化出来ていない。学校も同じ。学校は学校だけで運営してい
こうというのは難しい面がある。今、コミュニティスクール、学校と地域が一体となって
学校の運営をしていこうという、地域も責任を持ってもらおうという議論もしている。実
際に、昨年度からコミュニティスクールという手法でモデル的に始めている学校もある。
要は地域がないと成り立たないというか、母体となる組織がないと成り立たない。そうい
うことも含めて学校の方も今後も検討していく予定にしている。

○山脇委員 凄く良く出来ており、分かりやすいと感じた。ただこれを市民の方々が隅か
ら隅まで読まれるかと凄く心配する。

今、企業ではダイバーシティ、要するにいろんな方、いろんな雇用形態、外国人・日本
人・障がいを持っている人、いろんな人がミックスして良い仕事をしようという、偏見の
ない、それぞれを尊重し、それぞれの力を発揮しながらいい仕事をやっていきましょうと
いう研修をするようになってきている。今後の10年の見据えていくわけだから、新しい
ものへの取組というのにも必要なのではと凄く感じた。また、行政と企業、行政と地域が一
緒に、協働してということも書かれた方が市民としては分かりやすいのではないか。

49ページに男女共同参画社会の形成というのがある。施策の主な内容の3番目に「生
涯を通じた女性の安全・安心の確保」というのがある。「性と生殖に関する健康と権利」の
考え方について、情報提供や学習事業の充実に努めるとなっている。この性と生殖という
言葉にどきっとした。リプトダルティブ・ヘルツ/ライツという、国連のカイロ会議で決
められた女性の身体の悩みなどを性教育として教えなさいということ。多分市民の方もわ
からない。だったら書き方をわかりやすく、安心して産める社会にしようとか産みたい社
会にしようとか。それに含まれるような具体的なことは教育で教えられたらいいと思う。
全体にこういうふうに見るとそういう言葉使いがどきっとするとことかある。そういうと
ころが雑だと感じた。

○河毛委員 まちづくりの中で、長年「あゆ祭り」を実行委員会でやっている。行政から
も多分に御支援をいただき本当にありがたいが、先程の仕分けの委員がいらっやって、
その方が仕分けの際の予算の執行などの説明が全然わからないと話された。仕分けの中で、
その委員も実際に祭りに来られたわけじゃない。予算だけ見られて判断される。「あゆ祭り」
は特別で我々市民というか町民、地域のメンバーが300万必ず寄付する。そういう事の
大事さとか、確かにイベントで一過性の部分もあるが、それで構築した若者、あるいはそ
のメンバーの関係はずっと続く。一時の金額じゃない。町民2万人を超えた方が来られる。
皆さんが喜んで町内外、県外からも来られる。ここで人づくりが出来るということをもっ

と視野に入れていただきたい。これこそ昔は町がやっていたものを我々民間が力を出してやっている。その割に成果は非常に厳しい。ただ、やはりそういうイベントをやっており、心、想いというのが我々民間にも十分ある。まだまだ消えていないということを考えて上手くやっていけたら、まちづくりの中でもイコールで繋がってくるのではないかな。その場を与えることも必要ではないか。何か聞くと予算が予算がといつも言われるが、せっかくみんなが参加して良くしていこうと思っている事業を何でそんなに冷たくするのかと思う。今度若い人に実行委員長を渡した。それがやはり段々にまちをつくっていく大きな柱になると思う。そういったことも頭に入れていただけたら。

○山口会長 皆さんがいろんなキーワードを教えて下さった。これからの10年間、私達一人一人が行政から何かしてもらうのではなく、一人ずつが出来ることをやっていく。英副会長の言葉にあったように「活動していく」、谷口委員がおっしゃった「協働をやっていく」ことによって、これからの10年間ますます鳥取市が大きく、すごい鳥取市になっていくと思った。特にこの市政懇話会のメンバーの方はやる気のある方々なので、これからますます期待が持てると思った。それでは、総括して深澤市長の方から一言お願いします。

○深澤市長 まず、長時間熱心に御審議いただき、心より感謝申し上げます。

大変示唆に富む、ちょっと雑ではないかとか文章表現、言葉がちょっと足りてないと御指摘いただき、改めてこなれた文章にしたり、分かりやすくしたり、適切なものにしていかなければならないと思った。全庁でもう一度目を通して、いただいた御指摘、御提言を反映していきたい。

また多岐に渡って御意見いただいた。まず谷口委員から「協働」というのが定着していないのではないかと御指摘いただいた。今までキャッチアップの時代というか、高度成長の時代は同じように行政も揃えてやっていくという時代もあったように思うが、これからいわゆる成熟社会を迎える中で非常に価値観も多様化し、住民の皆さん市民の皆さんが求めておられる内容も非常に多様になってきている。これは市役所で、行政できちとお答えできるものばかりでなく、一緒になって物事を進めていく、取り組んでいくということではないかと思う。財政状況も大変厳しくなっているから、全部行政でやっていくということもなかなか難しいところは市民の皆さんでやっていただく、お互いに補いあっていく、こういったことも協働の中に込められているのではないかと思っている。

また、これから我々が経験したことが無いような高齢化社会を迎えようとしている。世界に先駆けてそのようなことが進んでいこうとしているが、先程松下委員からも地域コミュニティをこれからどのように構築していくのかといったお話もいただいた。大変大切な事である。2025年問題ということで介護、在宅医療、予防、暮らしや住まいも含まれていると思う。こういったことをみんなでどう支え合っていくのかという、2025年問題と言われているが、高齢社会を迎えるにあたって今からそういった組織づくりをしないといけない。これはもちろん行政だけでは出来ない。医療事業者の皆様や福祉、介護の事業者の皆様、地域の皆様と一緒に新しい仕組みづくりを、新しい社会を支え

合い、そういったものを鳥取市が全国に先駆けて作って行かなければならない。今年度から東部医師会から御理解いただき、職員が常駐させていただき、東部4町の皆さんと一緒に地域包括ケアシステムの構築に向けてスタートを切ったところ。新しい考え方で一緒になっていろんな分野の方と協力・連携してやっていくということが、この10次総の中で特に大切になってくると思っている。

また田中委員からソフトパワーをもっともっと前面に出していかなければならないという話をいただいた。私も全く同感。いろんなハード事業を網羅していくというのが今までの総合計画にありがちなスタイルだったが、鳥取市の歴史や文化を認識して大切にしてそれをまちづくりに生かしていくということをまさにやっていかなければならない。

小谷委員からは、パラダイムがこれから変化していく。またそれを5年で折り返して軌道修正を図りながら柔軟な対応をしていくべきとの話をいただいた。今までは基本構想10年、基本計画5年ということで実質は5年ごとに見直してきたが、世の中がもっと短いスパンで動いていると思うので、1年毎に進捗管理をしたり、修正したりそういった作業を今まで以上にやって行かなければならないと思う。それがPDCAサイクルで物事を検証したり考えたりしていくということであろうし、国の方も、石破大臣も盛んに言っておられる。鳥取市は、実は平成15年から行政評価システムの取組を進めてきており、まだまだ職員の中には定着しきれてないかもしれないが、ややもすると行政は事業をやりっぱなしで検証するということが少し足りてなかったように思う。なぜこれが出来なかったのか、なぜ十分ではなかったのか、そういったことを検証して次に生かしていく。チェックをして次のアクションに生かしていく。こういった発想を今まで以上に持って事業をやらないと、これから財政条件も厳しくなる。いろんなニーズも出てきており、いろんな要望もいただいている。その辺りはしっかりやっていきたいと思っている。

10次総は最終局面に差し掛かってきている。そろそろ完成形にしていく時期になったので、今日いただいた御意見御提言を限りなく反映させていただきながら、案から完成形に持っていきたいと思っているので、よろしくお願い申し上げます。